

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200825		
法人名	株式会社 富士見プロジェクト		
事業所名	グループホームさくら2号館(2ユニット合同)		
所在地	静岡市清水区蒲原中302-1		
自己評価作成日	平成28年1月6日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouoCd=2294200825-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年8月2日に1階ユニットオープン。平成23年4月16日に2階ユニットオープンの施設です。JR蒲原駅から徒歩5分、国道1号線富士由比バイパス蒲原西出口からも近い場所にあります。海岸が近いので、天気の良い時などは散歩で海を見に行きます。地区のお祭り際には、当ホームの駐車場にて踊りを披露して下さったり、定期的に地区の唱歌や踊りのボランティア様が来所して下さったりと地域の方々には支えられています。今年度より、季節のイベントを増やし個別外出も行っていきます。医療面でも提携病院との連携体制や受診支援等により、利用者様・家族様に安心して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行政と地域を中心に平日開催とした運営推進会議には蒲原中1～3区の各自治会長に声をかけ全員が揃うこともあります。地域包括支援センターからは「職場体験の受入を～」 「高齢者世帯に呼応して話相手～」と、「～したいがどうか」との具体的な働きかけがあり、「身内の言動の変化は認知症？」との運営推進会議メンバーの質問には適切な助言を以て事業所主催の認知症サポーター養成講座に至っています。また民生委員は紙芝居披露で応援くださり、外部ボランティアも増えて「見られている」事によって職員の意識も向上しています。運営推進会議での具申をひとつひとつ実践することで日々前進している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員から募集し、タイムカードの上に掲示し毎日職員が見る事により、共有を図っています。職員個々の意識差がありますが、少しずつ意識づけが出来て来ました。	職員皆で考えた理念「その人らしい生活」は、一人ひとりの訴えに対し「どうケアをしていくか」意見を出し合えるようになり、「鮭を食べたい」「愛犬に会いたい」といった個々の意向に副った外出に結ばれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の祭りや清掃活動へ参加しています。日常的な挨拶の励行により地域の一員として交流しています。	地区秋祭りでは立ち寄りの子どもに菓子を配るほか盆踊りや地域防災訓練にも出向き、最近では散歩中に声をかけられることが増えており、介護マーク付き名札を見つけ手助けくださる優しい地域に溶け込めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した際に地域の方々に、認知症に関する相談等随時受け付けている旨発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方々や御家族の意見を聞いてサービス向上の参考にしています。評価への取り組み状況等について、スタッフ会議で取り上げ話し合いをします。運営推進会議は2か月に1回奇数月に行なっています。	行政と家族では出席できる曜日が異なることや会議というと堅苦しいと感じる家族も少なくないことから、家族には行事への参加を呼びかけています。功奏として蒲原中1区、2区、3区の自治会長全員が揃うこともあります。	何事もメリット、デメリットがあるため、家族不参加はやむなしとしても、意見が反映するような仕組みを期待します。例. 議事録とともに質問や提言をもらうための書面を用意する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出の際の電話や郵送でのやり取りが多いです。それ以外での日常的な連携は不足していますが、地域包括支援センターを招き運営推進会議を実施しています。	訴えに根気よく寄り添う介護相談員の来訪が定期にあります。じっくり傾聴してくれ2年間交替もないため利用者も心を開いており、介護保険制度にも詳しく疑問点も次回には回答の持ち込みがあり、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行なっていますが、職員が2人介助に入りフロアーの見守りが出来ない時、明らかに危険があると判断した時のみ、短時間施錠する事があります。	玄関施錠はありませんがユニット入口にはフックがあり、手が足りなくなると安全のため掛けていますが、当たり前とならないように取り計らっています。外部研修にも参加し、職員は安全面と自由度のバランスを状態に応じて話し合うことができるレベルにあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態観察、異常の発見時の報告・記録を徹底し事業所内での虐待が見逃されない様に、職員同士が声掛けあい注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護技術出前講座、認知症サポーターセミナーなど地域の皆様にも参加の声掛けを行いました。他に、職員個別に外部の研修に参加するなど知識、技術の向上を心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文章で説明は十分に行い理解・納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関してはケアプラン説明時や電話連絡時や面会時等に意見・要望を伺っています。利用者に関しては管理者からの直接の聞き取りや、職員が要望を聞いた際の報告を通じ意見・要望を伺い必要に応じ運営に反映させています。家族様より「職員の名前を憶えたい」との要望を受け、玄関に職員の職員の顔写真と名前を掲示しました。	「平日は厳しい」として運営推進会議に出席はなく、イベントで声をかけても芳しくないものの、少なくとも月に1~2度は面会があります。家族の声から活動の様子を写真に収め掲示して好評を博しています。	イベントに誘っても反応が薄いとのことでしたので、家族との親和を深めるための方策を検討することを期待します。例. 個別面談、家庭訪問等
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や個別面談、アンケートを通じて職員の意見や提案を聞いて、必要に応じて反映させています。	ここ一年でパートタイマー職が増加したことから正職員への良い刺激となり、「お互い様」の精神で快く勤務交替にも応じてくれ安心の態勢にあります。管理者も現場に入り、日常的に意見が聴取できています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、面談を行い人事考課制度を通じて、職員個々の実績や能力に応じた評価をして、向上心を持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修への参加を支援し、職員個々の意識や能力の向上を進めています。本年度も、講師の先生を招待し講座を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加支援や関連施設でのイベント参加を通じ、同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安に配慮しながら、傾聴し少しでも早く安心して生活できるように全職員で意識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時や見学時に良く話を聞いて、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時やアセスメント時に本人と家族の意向を良く聞き、当ホームの方針を説明し、他施設・他サービス利用も考慮して状況に応じた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員によって意識の差はありますが、食事や家事を共に行ない、共生を意識しながら関係構築をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所として出来る事出来ない事、家族でなければ出来ない事等を入所前に説明し、家族と職員が共に本人を支えていけるようにしています。家族が気軽に面会に来れる雰囲気作りやイベントへの家族参加等で本人と家族の絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所しやすい様な雰囲気作りや散歩時、イベント時の地域の顔見知りとの交流を通じて、馴染みの関係を継続出来るように努めています。	小さなコミュニティのため戸外では必ず知人に会い、暮らしの中では趣味や以前の職業の道具を使う人もいます。朝3時過ぎからフロア清掃に励み、夜7時には床に就く、在宅の頃のペースを守っている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりを持ちながら、孤立する事なく円滑に人間関係が築けるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族様がなかなかGHに来られませんが、必要に応じフォローに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時思いや意向の把握に努めていますが、困難なケースが多いです。家族の意向を考慮しながらも本人本位になるように担当職員を中心にモニタリングをし計画作成を行なっています。	職員一人が利用者1、2名を受持ち「行きたい所に行こう」話を聴きだして一年以内に実現しよう」と協議し、例えば「愛犬に会いたい」では家族会議まで開いてもらえ、現在では毎月自宅に戻ることが叶っています。	家族アンケートでは「意向の把握に努め実現させている」ことが届いていないと思われる内容もありました。書面をはじめしっかり伝えていく仕組みについて再考を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に極力把握出来るように努めています。他にも御家族や友人が面会に来られた際生活歴を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な記録・申し送りの他に状態変化の見られる方については、随時報告・連絡・相談を心がけています。申し送りノートやスタッフ会議での職員間での情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはご本人・ご家族様の声を頂き、どうここで暮らしたいか又サービス内容で何が未達成なのか明確にしています。担当スタッフの介護計画への関わりを持ち長期目標・短期目標の達成に意識させています。	本人の満足度、家族の満足度欄を設けて次のプランに反映させていることや、サービス内容は介護援助指示内容として別紙計画書へ記載し、新人職員でもわかるように具体的に示していることを視認しました。	サービス担当者会議に家族の参加を得ることでプランの充実とともにコミュニケーションの機会が増えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス実施記録を作成し日々、適切にサービスが実施されているかスタッフが項目毎に押印し月末に何が未実施なのか明確にし短期目標への見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握において不十分な面もあるので、今後地域資源の情報収集・活用をしていきたいと思っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿えるように支援しています。提携病院での受診を希望される場合も多く、付き添い介助をしています。	かかりつけ医には8名が受診を続け家族にお願いしていますが、車いす利用では事業所で送迎しています。協力医へ変更した7名は職員ですが、いずれにしても日常の様子は書面または口頭で伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康管理があります。他にも緊急時の対応指示を仰いだり、報告・連絡・相談を行ない看護師と連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も連絡をとり状態把握に努め、入退院時の連携がスムーズに行えるように、情報交換や相談等病院関係者との関係づくりを行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の対応について話し、事業所として出来る事・出来ない事を説明し同意を得ています。また、重度化となる前の段階で家族と話し合う機会をもち、医療機関を紹介するまでの支援をしています。	契約時に「食事が摂れない」「入浴が困難」となれば病院へ移行してもらうことで合意しています。救急搬送先は決まっていますが、延命希望は「その状態にならないと～」という返答がほとんどのため、些細な変化も含み予測される場合には家族へ再確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H27.5月に消防署員による指導を行いました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の事業所での防災訓練の他に、地区での防災訓練に参加しています。夜間の訓練は現在行なえていませんが、夜間に停電があり職員の半数が駆けつけてくれました。	漏電による停電があった事例では、連絡網で呼びかけたところ夜間にもかかわらず大半の職員が集結、翌日のパン購入への配慮や懐中電灯持参と機敏な行動がみられ、防災意識の高さが覗えます。	訓練では十分なメニューをこなしていますので、今後は万遍なく体験して有事に備えるよう、誰が何を担当したかの記録をとっていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を指導していますが、言葉遣いや態度が気になる職員もいます。	転倒リスクへの見守りから開け放しにする職員もいるため「トイレのドアは閉めよう」と指導しています。中央がガラス状の居室扉は中の様子が見えてしまうため気にする人には目隠しを取り入れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現しやすい雰囲気作りをして、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的なスケジュールはありますが、利用者個々の体調や気分、状況に応じて個別支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら好みの服を着ていただいています。女性利用者の中にはマニキュアを塗ったり、メイクをしたりおしゃれを楽しんでおられる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の役割として片付けをする方もいます。可能な方は調理準備関わっていただく事もあります。職員と利用者が一緒に食べながら、楽しく安全に食事出来るように配慮しています。	配達された食材ですが、利用者にも好みの味付けを尋ねるなどして担当職員によってアレンジが入り温かみがあります。大根おろし、もやしの根とりなど手伝ってもらったメニューは職員もテーブルを囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士が献立を作成しています。食事量や水分量はチェック表で管理し過不足ない様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして、清潔保持に留意しています。洗浄剤による夜間の義歯洗浄も行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、日中はトイレで排泄出来るように支援しています。	排泄チェック表をもとに「2時間以内の誘導」を旨とし、パッドをいってしまうケースでは排便時間のチェック、服薬の見直しを以て改善しています。日中活動を充実させ体内リズムを整え、夜間の回数を減らした例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、適度な運動をしてもらい便秘予防に努めています。必要に応じ主治医・看護師に相談して薬の調節、食事形態の変更等個々に応じた対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日は決まっていますが、本人の希望や外出の予定等により、臨機応変な対応は可能。利用者のタイミングに合わせて入浴順や時間は適宜変更しています。	30～40分、長い人では1時間と十分な時間をとることを大切として1日の入浴人数を3名程度と決めています。職員と一対一でゆっくり話ができる唯一の時間、「いい湯だな」や「富士山」を口ずさむ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況に応じて、居心地の良い場所で休息出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み内服薬について理解する様に努めています。薬の変更があった際には申し送りノートで全職員が情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の水やり、床のモップ掛けや洗濯物たたみ等の本人の力を活かした役割をもって頂き、やりがいや喜びを感じていただける様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い天気時には散歩や外気浴を楽しんでいただいています。普段行けないような場所へは家族に協力をお願いしています。今年より、季節のイベント、個別の外出が増えていきます。	暖かい日には近くの公園や海岸までと散策のコースもできています。また本年は職員も増え、秋の遠足として日本平動物園へと4年の車輛を駆使して全員外出が叶い、昼食には注文した稲荷寿司で遠足気分を堪能できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行なっていますが、本人の希望に応じて買い物に出掛け自力で支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で広く開放的な共用空間で、思い思いに居心地よく過ごせるように配慮しています。室温・湿度の管理にも気を配っています。	近隣から「扉が閉まっていると訪ねにくい」と言われたため玄関は冬季でも開放し、庭には畳1~2畳分の畑に冬野菜が実っています。ユニット入口に毎月替えるという先月の活動写真が貼られ、テープ止めで済むよう安全面への気遣いもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座り新聞・雑誌を見たり、談笑されたり自席で過ごしたり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具はあるが、本人や家族と相談しながら、必要ない物は撤去し、持ち込みも自由に行なって頂き、本人が過ごしやすい環境にしています。	ベッド、タンス、壁掛け、鏡と机、小物入れと調度品は予め揃っています。当初かかっていた絵画を外し、コルクボードに利用者の好みに合わせた写真や作品を飾付けたことで「その人らしさ」が際立っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりが設置されており、安全に歩行出来る様にしています。ネームプレートを本人の目線の高さに合わせたり、分かりやすい表示を心がけています。		